

青山好惠 よしのぶ 新聞記者。明治五年愛媛縣宇和島生れ、二十九年十一月十二日没（一七三二六）。善好村松。號曰知情客、四洲、靜軒。未廣鐵腸の學ぶ。明治十九年上京、二十二年朝鮮の漢に『朝鮮時報』記者、改題『朝鮮新報』の主筆となるも、肺病に罹り歸國。のち鐵腸の紹介により朝日新聞朝鮮通信員として再渡鮮と、通信上の失策を引責退社して『朝鮮新報』を再興、實弟村松忠雄と共に筆を執る。他『中央新聞』、『朝日商業日報』の朝鮮通信や執筆してゐるが、病再發、歸郷後 こへん 終つた。

『朝鮮名家詩集』(明治二十七年八月九日博文館「寸珍百種」)を撰刊。その外、小川雄二「青山好惠君の長逝を悼む」(『新聲』第六號・明治二十九年十一月二十七日青森社所掲)がある。